

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價送送料は左の如し
一號 貳錢五厘〇一箇月 前金五拾錢〇三箇月 前金壹圓四拾五錢〇六箇月 前金貳圓八拾五錢〇一箇年 前金五圓六拾錢〇月曜日休刊(此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ)

時事新報送送料

- 一 日本國內並に朝鮮京城、仁川、釜山、元山津一箇月 金拾三錢
二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を経て郵送する歐洲各國 一箇月 金六拾錢
三 北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸島 一箇月 金三拾錢
四 香港を経て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸島、澳洲 一箇月 金六拾五錢
五 露領滿洲、清國諸港 一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料(約定)

Table with 2 columns: 一行五號活字廿四字詰 一日以上 六日以下 七日以上 一行 二付 十三錢 十一錢 十錢 五厘

本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を撰述するより各社同一の記事を撰述するより算からず獨り時事新報社社員並に通信員の多きを以て新聞社の通信に依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も算からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に連したる投票の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

鐵道の効力

交通不便の地方に鐵道を敷設するときは百般の事物の影響を蒙りて面目を一新する中にも最も著しき直接の變動は線路に接近する地所の價格假と購買するの一事なり左れば歐米諸國にて鐵道敷設の計畫あるときは利益に振目なき投資者流は皆争つて其線路の經過す可き方角を卜し、地を購買して一擧千金を利する者少なからず尙ほ甚だしきは鐵道會社が自ら竊に見込みの地所を買占めて奇利を博するものとあり現に米國にて有名なるアチソン鐵道會社の如きは開業以來收入甚だ少なくして年々の配當僅に一二分に止まり鐵道事業のみにては到底立行くの見込みなしと雖も該社を創立したる株主等は何れも線路に沿つて廣く地面を所有したれば其地價の騰貴に連れて大利を博し以て其株券下落の損失を償ふて餘ありしと云ふ

現はしたるの談もなきに非ざれども斯の如きは東の例外の事にして全國各地方を平均すれば鐵道開通の爲めに地價の騰貴は案外に僅少なるの實を發見するものとあり可し試に各地方に數多き停車場を見よ其用地は如何にも廣々とて荷物積卸場、納屋倉庫の敷地、人力車馬場等何一つの差支なく充分に具はり居れども一面たゞ空地にして建物とては驛員の止宿會と一二軒の休息茶屋とを見る位のみにして寂々寥々誠にも景氣千萬なるもの多し多ければ斯次第にては其近傍の地價が他に比して特に高き道理は萬々ある可らず若し果して高ければ其地面は所謂地面師の所有に屬し常に高價を唱へて萬一を僥倖せんとする者にして之を賣らんとするも實際に出して買ふ者は先づ以てなかる可し左れば全國各地にて鐵道敷設を當込み地所を買入れたる者にして最初の計算通りに利益を得たるの例は極めて少なくして十中の八九必ず失望したるものとならん甚だ奇なるに似たれども今の然る所以の事情を案するに日本の地價に限りて特別の性質あるに非ず唯日本の鐵道は運輸交通の點に於て西洋諸國のものに比較し遙かに利便を異にして地價の昇降に影響するものと能はざるが故のみ近く一例を示さんには東京の新橋品川間の速度八分を減じて五分と爲し發車の度數を毎十分と改めたらんには品川近傍の人が新橋に行くに假令第一列車に乗後れても十五分を費せば必ず目的に達するが故に乗客の増す可きは無論、市中の事務に忙しき人にては新橋の住居と品川の住居とを差したる相違なければ地面の廣くして空氣の清潔なる品川近傍に住宅を構へ海邊の高臺忽ち變じて第二の京橋區と爲るや疑ふ可らず地價騰貴せざらんを欲するも得べからざるなり然るに今日の實際は品川邊に人力車の群集のみか品川新橋間に馬車往復の業を營み恰も汽車と競争して生活する者さへあり天下の一奇觀と云ふも可なり發車の度數を増し速度を増し兼て又賃金を低くすれば停車場近傍の繁昌は品川のみならず大森川崎鶴見も同様にして東京を去るものと僅に數里の地なれば都下の紅塵を避けて轉居する者ある可きは必然にして既に中人以上の居るれば其地方の繁榮は辨を俟たずして知る可し現在の有様にては大森鶴見の如き何の爲めに停車場を設けたるや殆んど解す可らず唯その邊の百姓漁夫等の爲めにするか左りとはい過分至極のみならず乘車賃金の安からざるが爲めに小民等は汽車の走るを見ながら之に乗る者少なし停車場は殆んど無用の長物のみ又京濱間の不便に至りては一層の甚だしきものにして兩市相對して商賣取引の盛なるは日本第一と稱す可きに横濱住居の人は東京の店に來るものと易からず東京の人は横濱の事務所に通動す可らず毎一時の發車を狙つて首尾能く之に乗る凡そ一時間を費して先方に達するを得るも毎日の通勤に假令引の切符を買ふも其割合非常に高くして小給の者は月給の全額を汽車賃に取らるゝ懸けなるが故に京と濱と勤務の處を改る毎に家内引越の騒動せざるを得ず擧げ難き大策なりと云ふ可し凡そ此邊の辛甘は類に汗する實業家の知る所にして官邊の役人達には分り兼ねるものとされども國の鐵道は國の公道にして政府の専有す可き性質のものに非ず我輩は敢て地所購買の事を云ふに非ず唯停車場近傍の地價如何の事實を觀察して我輩の注意を促すものなり

官報

外務省令第二號
京都府丹後國宮津港ヨリ露領滿洲斯德及朝鮮國へ渡航スル者ニ限リ京都府廳へ願出海外旅券ヲ受クルコトヲ得
明治二十六年九月二十五日
外務大臣陸奥宗光

雜報

函館港修築の豫算 北海道廳にては來る二十七年年度の豫算中へ函館の修築工費をも編入するの見込にて目下函館中なる北垣道廳長官は時々内務省へ出頭して種々取調べを爲し且つ今度特に廣井技師(出京を命じたるよし)
專任委員會と總會 前號の本紙に記したる如く東京商品取引所創立委員二十四名の諸氏に去る十三日日本橋區柏木樓に會合し定款及申請書の草案に付大體議を遂げ夫より專任委員一商品より一名宛を撰舉し次て一昨日より渡邊治右衛門氏方に於て詳細の審議を遂げたるが是又昨日を以て結了を告げれば同事務所は直に株主總會の手續きに着手したり依て明二十七日日本橋俱樂部に於て開會の筈なるよし
漁場探検船の歸航 屢々本紙上に記したる如く水産調査會の汽船清江丸は豫て金花山沖なる新漁場等探検に従事しつゝありたるが本年は最早終漁期となり且つ汽船の借入約定も満期となりたれば去る十九日を以て乗組員精木技手等は萩の濱より他船に乗換へ一兩日前歸京したるが乗組員の談話に因れば同所近傍黒潮の流域内には鯨を始め各種の魚族頗る多く漁業上將來多望の所なるが本年は已に出漁期節に後れたるを以て鯨の如きは兩三頭を見掛けたる迄にして鯨、鳥賊其他は魚類は鹽漬或は乾製して夫々持歸りたる由なるが尙ほ精木技手以下は目下出漁日誌等に因り復命書起草に着手し居れりと

關西鐵道の收入旬報

本月十一日より同二十日迄十日間の關西鐵道會社運轉假收入は左の如し
一金四千九百五十九圓五錢 假收入
一金三千九百七十九圓四十七錢 假客貨
前年同月比に比し金七百三十六圓五十錢増

法恩寺の天花

法恩寺は本所區内の大伽藍程ありて表門より中門まで小一町もあり頗る表より見込み好き構へなり右表門と中門の間兩傍一帶の紅萩今を盛りに咲き揃ひて宗旨違ひの者まで足を引寄せらるる眺めありと

明治座

の新築工事は外面より望みて最早竣功せしかと思はるゝ程にて既に大工は手を引き専ら内部の修飾中なり今度は表通りを廣げたるので建坪は従前より狹隘なるも構造は頗る壯麗なり昨今の模様ならば來月二十日頃には舞臺開きを執行する運びに至るべし

なぐさみ

淺草座(つゝ)中幕菅原の寺子屋は松王といひ源藏といひ立巻といひ千代といひ古來名人上手の扮したる形も多きよしなるが今度の松王が立巻を背ろにし源藏の方に向つて首を實檢し千代が源藏の刃を受け止めし文庫の蓋の裏に梅は飛び櫻は枯れるの短冊を張附け置ける杯定めてある形ならんが見物には見慣れぬ人の多數を占めてや執れも奇異の感を抱けるものゝ如し借○兩子の春輝玄蕃 先年吾妻座にて時藏の源藏に對し

松王丸を勤めし
が今度は立巻を勤
白髪の玄蕃を勤
に備ひ昨年春木
が僅は例の赤面
り首實檢に松王
ひ所登と大形過
は普通の形にて
實檢したる爲め
と松王が歸り去
さし唇を水にて
急須の茶を茶碗
竹筒の水入れよ
○女實の戸浪
事なればはの方
りしも一體に上
郎を伴れ來て戸
居る管秀才と吾
て好く別れを惜
戸浪に聲を掛け
たり前記の如く
の文庫でハッッ
の立廻りが蓋の
といふ趣向にて
られるを承知で
出す杯間が振け
りし事にあらす
備なるやと問ふ
ふべ世は御役
さてそれ程に受
好し先づ當今の
實檢に源藏の方
顔を見らるゝと
なるか玄蕃は只
と其體のものを
けん慮といは
勢せ
サア、猫は木
新發明の新機
朝鮮あたりの深
を鳴らし牙を怒
く肉裂け血汐進
なり